

城址、五条川、酒蔵…

東京大学に在学中の時から何回も、犬山へ来たことがあり、犬山は国宝犬山城を初め歴史と文化の薫り高いまちです。羽黒地区は城址、五条川、酒蔵などがバランスよく混在しました。歴史的にみると、2つの街道（木曾街道と犬山城へ通じる稲置街道）に挟まれた集落で、どの道も曲がりくねっており、その中から絵図や現在の地図を見ると、何が新しいか何が古いかが見えてきます。普通、道は最初に幹線ができ、次いで道沿いや周囲に人家ができてきますが、ここは逆で、先に人家ができてきたつなぐように道ができています。

ストーリー性のあるまちづくり



曲がりくねった水路。左は興禅寺



羽黒城址の竹林で灯りアート

大縣神社への大県神社線などで、昔はこれらの道路が都市の軸でした。中世のころ、羽黒の武士は農地を耕して、偉い人（支配者）に仕えることで、安定した生活を保証されてきました。今も「城屋敷」という地名があるっており、城址が残っています。羽黒地区を回ってみると、大きな木の周囲が駐車場になっているところがあり、大変珍しい風景です。源頼朝の名馬・磨墨の塚があったり、五条川の桜並木の遊歩道やその

中央に尾張富士が見えたりして大変すばらしく、通勤や通学にうまく組み込まれていました。このように古いものから新しいものまでうまく混在しており、例えば道路は時代感覚が分かるよう色分けするといいでしょう。羽黒城址を拠点として、自然発生的にまちができており、物語的なストーリー展開のできるようなまちを造ると、もっとよくなると思います。

講演会後の一問一答は次の通り。
——源頼朝の重臣・梶原景時の子孫が羽黒地区を治めていたとされており、本能寺の変の時、織田信長とともに討ち死にしています。また小牧長久手の合戦では羽黒で森丸の兄である森長可の家来の野呂助左衛門親子が戦死しています。また入鹿池から木曾川へ流れる新郷瀬川の「新」の意味を知らない市民が多い。もつとPRする方法は？
西村教授 郷土学習や事業関係のパネル展、ミニレクチャーなどを開くのも一方法です。
——特色あるまちづくりとは？
西村教授 同じ建物が連続してあるより、個性がある方が魅力的。羽黒は他地区との境が田や畑で区切られており、独立した個性あるまちになっています。この方が住民の郷土意識や気概が高まると思います。（文責・山田）



「歴史と自然」活かした



講演する西村教授



五条川の桜並木から見える尾張富士

羽黒の個性あるまちづくり

羽黒のまちづくりを「歴史と自然」を活かした立場から市民と考えるセミナーが10月13日、南部公民館で開かれました。講師は都市計画や市民主体のまちづくりを専門に、全国を舞台に活躍する西村幸夫・東合大学教授。同氏は多忙の中、数時間の下見にもかかわらず、羽黒の歴史と自然を活かしたまちづくり論を、1時間半にわたって展開、参加者に「城址、五条川、酒蔵などがバランスよく混在しており、これらを活かした個性あるまちづくり」と訴えました。（次ページに要旨を紹介）